



いのちの日便り

2018/12/10
いのち推進
プロジェクト
No. 8

保護者の方・地域の方による読み語り

12月4日（火）の「一中いのちの日」では、保護者の方や地域の方による読み語りを行いました。
友達や家族の大切さや自分の生き方、生命について考える本など、「いのち」に関する本を選んで読んでいただきました。
皆様、ご協力ありがとうございました。



第1学年

クラス、お名前	書物名
1組 平 恵 さん	ちいさなもみのき
2組 荒井 理子さん	二番目の悪者
3組 高橋あゆみさん	桃太郎が語る桃太郎
4組 平尾 玲子さん	かえるの平家物語

第2学年

クラス、お名前	書物名
1組 無着早智子さん	たいせつなきみ
2組 小林 祥子さん	りゅうのめのなみだ
3組 菊地喜美子さん	はなちゃんのみそ汁
4組 菅原 智美さん	もりとくさはらにあったおはなし
5組 大森久美子さん	くまとやまねこ

第3学年

クラス、お名前	書物名
1組 高砂 綾子さん	ヒワとゾウガメ
2組 石井由美子さん	光の星
3組 遠藤千沙子さん	ぼくはチューズディ ～ 介護犬チューズディのいちにち ～
4組 安達 桂さん	ひらがなにつき
5組 今野 雅世さん	あなたの物語

ひまわり

お名前	書物名
早坂 寛子さん	たべることはつながること

<生徒のみなさんの感想より>

男の子がもみの木と一緒に成長していく物語でした。男の子は足が悪かったけれど、最後の冬に歩けるようになったので良かったと思います。もしかすると木のおかげかと思います。(1-1 駒谷 吉平さん)



ちいさなもみの木の話をして、最初はひとりぼっちのかわいそうなもみの木だったけど、後からもみの木がクリスマスツリーになって、少年も歩けるようになってハッピーエンドで終わる話でした。多分、木がいなかったら男の子は今でも足が動かないままだったのではないかと思います。(1-1 鈴木 咲哉さん)

今回のこの話を聞いて、悪いのはその人自身だけではなく周りで止めたりしなかった人達も悪者なのだと再確認することができました。周りに悪者がいたら止めてあげようと思います。(1-2 伊藤 豊さん)

うそを広めるのもダメだけれど流されて一緒になってする人も悪者だと思った。私はどちらにもなりたくないの噂やうそは広めず自分から話さないようにします。(1-2 五十嵐 楓さん)

今日の物語を聞いて思い込みだけで嫌いになったりするのはやめようと思いました。どんな人でも優しく話しかけたらりゅうのように心がひらくのかなと思いました。(2-2 高橋 勇太さん)

周りの人にどう言われようと、なんと言われようと、自分の好きなことやものを変えなかった不思議な子。それはりゅうが本当に大好きでその思いがりゅうを優しいものに変えてくれたのだと思う。(2-2 三浦 理彩子さん)



自分の命、人の命のことを改めて感じさせられたと思う。大事な人が亡くなるととても悲しくなるが、もっと精一杯生きようという感情になると思った。(2-3 阿部 泰征さん)

普段普通にお味噌汁を作ってもらって飲んでいるけれど、母の負担を減らすという意味でも自分で味噌汁を作ってみてもいいなと思った。はなちゃんのお母さんみたいな状態になったら、私だったら何も出来ないと思うからはなちゃんはずごいと思う。(2-3 大津 ひなたさん)



困っている鳥を助ける星のように困っている人を助けたいし、輝いている二つの星を見てばかりで周りのことを見ないのではなく、たとえ周りの人がどんどん成長していったとしても、自分を忘れないでよく周りを見るようにしたいです。(3-2 小林 志緒さん)

今日の作品を聞いて、青い星や赤い星のように自分のことだけを追求する人が一番輝いて光るのではなく、助けを求める人に手をさしのべてくれる立派な白い星のような人が、本当に輝くべき存在なのだと思います。私も、他の人から輝いて見える存在になりたいです。(3-2 結城 一路さん)

僕は、介護犬のチューズディがすごいと思いました。戦争に行って大けがをしてきたルイスを全力でサポートするということが本から伝わってきました。ルイスも、イラクから帰ってきて家にとじこもっていたけれど、チューズディがいたから前向きになれたと思います。そんなふうに関心を思いやる心を大切にしていきたいです。(3-3 鈴木 真丈さん)

生まれてすぐに訓練を始めて人の役に立っている介護犬のすごさがわかりました。体が不自由なルイスと、その介護をするチューズディの関係がお互いの信頼や愛情から成っていて感動しました。

(3-3 稲毛 水夏美さん)



*次回の「いのちの日」は、1月8日(火)始業式の校長講話です。